

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書の記載事項について

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立墨田工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課(室)長、教務主任、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、総務主任、工業主任 計8名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)
学識経験者(元学教授)、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、警察署生活安全課長、消防署出張所長、同窓会長 計8名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1~3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月27日(木) 内部委員6名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和6年11月28日(木) 内部委員8名、協議委員5名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年2月19日(水) 内部委員6名、協議委員5名
学校評価アンケート結果、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月27日(木) 内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年11月28日(木) 内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：310人	回収：283人	回収率：91%
・12月 保護者全員	対象：310人	回収：89人	回収率：29%
・12月 地域・住民	対象：8人	回収：6人	回収率：75%
・12月 教職員	対象：52人	回収：49人	回収率：94%
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフ・ワーク・バランスの推進、学校満足度、施設・設備など
- (4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)
 - ・学習指導において、90%近く興味関心を高められている。
 - ・学校満足度は高いが、施設においては半数以上が不満をもっている。
 - ・生活指導は、挨拶をはじめ本校に入学後に良き習慣が身につけていると全体が評価している。
 - ・進路指導については生徒は98%で極めて高い。保護者は78%とギャップがある。
- (5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)
 - ・継続して様々な事項に対し興味関心を高める努力をする。学力や技能等に直結できる工夫があると結果も出て更に良くなる。

- ・学校をよりよくするには、現場の人間の声を大切にすることが重要である。施設等の回収等難しい問題もあるが、その声からのアクションを実行していくべき。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ひとりひとりに寄り添った指導が、学習、生活、進路すべてにおいて良い結果を生んでいることが確認された。
- ・入試倍率の低さとは裏腹に、入学後の指導が適切であることが各項目より実証された。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・入試倍率を上げる必要がある。PRの方法には様々な工夫が必要。中高の全体的な枠組み改善も必要。
- ・生徒と保護者の受け止め方にギャップがあることも多い。情報発信方法に課題がある。
- ・事故や犯罪から生徒を守っていくことも強化が必要。各所との連携も検討。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・各種校内研修の更なる充実を図る(回数、内容共)。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者や警察等との連携を強化する。
- ・ホームページやSNSを駆使した広報活動を展開し、生徒募集を強化する。

(2) 学習指導

- ・反復練習や繰り返し指導、ICT使用の工夫で基礎基本を定着させる必要がある。
- ・工業科各科の連携を強化し、資格取得の増加や生徒の技能スキルの向上を図る。

(3) 特別活動

- ・本校の特徴的な行事では伝統を継承しつつ、生徒の実態に合った工夫を加える。
- ・特別推薦の活用をはじめ、部活動の更なる活性化を図る。

(4) 生活指導

- ・ひとりひとりへの支援を継続し、ストレス等への対処法、自身を持たせる教育活動を展開する。
- ・教職員が先頭に立ち、挨拶はじめ社会でも通用する人間性を生徒に育む。

(5) 進路指導

- ・系統的にキャリア教育を着実に実践する。進路決定率100%を維持する。
- ・大学希望者への指導体制を再考し、それぞれの入試に対応する。

(6) 健康・安全

- ・授業や生活面での安全教育を推進し、事故ゼロを達成する。
- ・SCや関係機関、学校保健委員会が連携して教育相談体制を強化する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	3					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】 実績を作ることができなかった。

8 その他

- ・保護者連絡システム等を活用しアンケートの回収率を高める必要がある。
- ・学校運営連絡協議会の意見や案を実行しやすい体系の確立を目指す。